

恥ずかし財津の旅日記

ー能面の傾きで感情を表すと言われてもー

昨年秋 大阪万博が大盛況の中、大阪本町にある大槻能楽堂で演目「羽衣」を見てきました。元々お能への興味はなかったのですが、人から誘われたので経験の一つと行くことにしました。

今回万博で外国人観光客が多い事も幸いして、始めに解説が付き演舞の後に舞台裏を見せて頂けるという特典付きでした。初心者の私が見てきたままをお能へのいざないとしてお話しします。

解説によれば、お能を和風ミュージカルと考えれば、謡い(歌う)、踊り、オーケストラの代わりに大鼓と小鼓の器楽演奏から成り立ち、主に「幽玄」の世界を表現しているとの事。すなわち幽靈と神様の世界を表しているそうです。今回の演目「羽衣」は天女が地上で湯あみするため三保の松原の松に羽衣を掛けていたところ、通りがかった漁師が宝物にと持ち帰るという話です。皆さんも昔話でお聞きになったことがおありだと思います。解説によると羽衣は宇宙服に例えられ天上に帰るのに必要不可欠な為、天女(神様)は舞を舞う事で羽衣を返してくれと懇願する話です。これによく似た神話は世界中にあるようです。

お能のもう一つの分野である「幽」の物語としては世阿弥の「敦盛」が代表作として有名です。源平の戦の中、一の谷の合戦で平敦盛(16歳)を打ち取った熊谷直実(後の蓮生法師)が罪の意識から出家し敦盛を弔う物語です。敵同士が念佛の功德により修羅の苦しみから救われる哀愁と風情に満ちた作品です。

この様に精神世界を描いたことでお能は世界的に高い評価を受けているようです。

当の日本人には、高尚すぎて触れ合う事が少ない芸術になっている気がします。

鑑賞の感想

天女の舞は優雅でゆったり、ほとんど動いてないように見えます。ただ小鼓の透きとおった音、大鼓の引き締まった音が謡いの声と合わさり、天女と漁師の掛け合いが進行しているのは、理解できました。ただ能面の傾きで感情を表すと言われても・・・

舞台裏の見学

1、四隅の柱はとても重要です。仕手(主人公のこと)は、能面の小さな穴からこの柱を目安にして舞を舞い舞台から落ちないようにしている。

2、一番後ろに控える後見と呼ばれる役者は格上の人で、仕手に異変があればすぐ交代して舞台を続ける。能舞台には幕がないので隠しようがないため。

3、松の絵が描かれている舞台の板壁と舞台の下の空間は、音響効果を高める働きがある。

4、能衣装は刺繍縫い取り等が非常に豪華で大切に受け継がれている。

5、羽衣は細い金糸で織られた繊細な衣装で超絶技巧が施されている。

6、渡り廊下の幕の奥は鏡の部屋となっており演者の呼吸を整える部屋である。しかし幕はもう一つ別の意味を持っている。すなわちあの世とこの世を隔てる境である。

舞台の上はこの世であり、幕を挟んで、あの世から神や靈が下りてくるのである。

7、役者以外の後見、謡い、鼓の人は切り戸という小さなくぐり戸を使って出入りする。

如何でしょう、ものは試しに機会あればご鑑賞下さい。



能舞台

羽衣

みんなで考えよう！防災カフェ



日時: 2月26日(木) 13:30~14:10
場所: 鹿田薬局
参加費: 無料

内容:



自然災害に備えて準備すべきものと一緒に考えよう！

☆防災食の試食会あり☆



お花プレゼントキャンペーン



令和8年2月25日(水)~2月27日(金)

処方箋以外の商品を合計5,000円以上

お買い上げの方に素敵なお花をプレゼントいたします。

皆様のご来店お待ちしております。